

靴の歴史散歩 ⑦⑤

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

前は『靴工科教程書』の存在そのものが貴重ということで、あえて内容には触れずじまいで終始したが、今回原稿をまとめるに当り、西村記念室にも再訪、改めて教程書の精査も行なってきたので、それをご報告したい。またその折り、意外な新事実も発見されたので、併せて記録しておきたい。

『靴工科教程書』もその『附録』も、同じサイズ(22.4cm×15.2cm)で、古風な和装本である。『附録』の表紙左上部には、短冊形の題簽(表題)が貼られてあって、当時そのままの原装本であることが分かる。それに対し『靴工科教程書』の方は、題簽が欠落していて、背表紙に靴工科教程書と手書きのシールが貼られているだけであった。

二冊とも目次のない本なので、内容を紹介するには不便きわまりないと思いつつ、ページをめくっていたら、本の中から題簽らしき短冊が一枚、ぽろりと落ちてきた。なんとこれが、表紙題簽の欠落部分にぴったりと符合したから驚いた。見るとその題簽には『被服事務工術要領』とあった。

教程書といわれていたこの本の最初のページを開くと〈緒言〉とあり、そのあとに以下のような文章がある。

「陸軍被服事務ハ 五種ノ要点即チ外見・金銭・保存・雨露・屈伸ノ原則ニ基キ執行スルヲ要ス 然レバソノ工術的ノ学理ニヨラザルヲ得ズ ヨツテ實用ニ適スルコトヲ旨トシ 今簡單ニソノ要領ヲ抄録スルモノナリ 陸軍被服工長学舎印」

とあることから、間違いなくこの本は『被服事務工術要領』であることが確認された。

誰かの思い込みで教程書に扱われていたこの本が、なん年かなん十年かの間、誰にも読まれず収蔵されていたというのも不思議な気がするが、本体あっての附録、肝心の『靴工科教程書』はいったいどこに存在しているのだろうか。幻に終わらぬよう、せめて「靴の歴史散歩」連載中には、出会いたいものである。(この項続く)

掲載の写真は、晴れて正しい表題に戻った『被服事務工術要領』(左)と、『靴工科教程書 附録』(右)。

